

政策評価調書（個別票）

【政策ごとの予算額】

政策名	迎賓施設の適切な管理・運営				番号	㊤	(千円)							
	予算科目				他に記載のある 個別票の番号	予算額								
	会計	組織／勘定	項	事項		7 年度 当初予算額		8 年度 概算要求額						
政策評価の対象と なっているもの	一般会計	内閣本府	迎賓施設運営費	迎賓施設の運営に必要な経費			951,508			949,109				
	小 計				一般会計		951,508			949,109				
						<		>	の内数	<		>	の内数	
	小 計				特別会計									
					<		>	の内数	<		>	の内数		
政策評価の対象と なっていないが、 ある政策に属する と整理できるもの														
	小 計				一般会計									
						<		>	の内数	<		>	の内数	
		小 計				特別会計								
	<						>	の内数	<		>	の内数		
合 計					一般会計		951,508			949,109				
						<		>	の内数	<		>	の内数	
					特別会計									
						<		>	の内数	<		>	の内数	

令和4年度実施施策に係る政策評価書

(内閣府5-22)

政策名	迎賓施設				
施策名	迎賓施設の適切な管理・運営				
達成すべき目標	【施策目標】・国として国際儀礼を尽くし、最高のおもてなしを行い、日本の外交に資するものとする。 ・迎賓館の一般公開等を通じて、我が国及び迎賓館の魅力を内外に発信することにより、迎賓施設としての意義及び迎賓館赤坂離宮の文化財としての価値、京都迎賓館が有する伝統技能等の価値についての理解を促進する。 【中目標1】賓客が安全・快適な施設に満足する 【中目標2】参観者が迎賓館の価値を理解する 【中目標3】迎賓館赤坂離宮・京都迎賓館に対する関心の向上				
施策の概要	【施策の概要】 迎賓館は、内閣府設置法に基づき、迎賓館赤坂離宮と京都迎賓館を利用して、国賓・公賓及びこれに準ずる賓客に係る公式行事・宿泊等の接遇を行うとともに、平成28年度からは「観光先進国」の実現に資するため、接遇等に支障のない範囲で可能な限り、通年での一般公開を実施。また、迎賓館を歴史的建造物、文化施設等で、特別感や地域特性を演出できる会場(ユニークベニュー)として活用する「特別開館」も実施。 【令和4年度に実施した具体的取組】 ○接遇 ・迎賓館赤坂離宮では、アメリカ合衆国大統領との首脳会談など、接遇を5回行うとともに、京都迎賓館では、ドイツ連邦共和国大統領との地元主催昼食会など、接遇を5回(うち宿泊を伴うもの3回)行った。 ○一般公開 ・接遇等に支障のない範囲で通年での一般参観を実施した(迎賓館赤坂離宮:281日、京都迎賓館:282日)。 ・迎賓館赤坂離宮では、夜間公開や迎賓館所蔵のピアノを活用した演奏会などの特別企画(8件、延べ51日)を実施するとともに、京都迎賓館では、夜間公開や普段公開していない「滝の間」等の見学を含むプレミアムガイドツアーなどの特別企画(6件、延べ45日)を実施した。 ○特別開館 ・迎賓館赤坂離宮では、約3年半ぶりとなる特別開館を実施した。 (R4.12.16「日本全国能楽キャラバン!」特別公演及び映像配信(主催:(公社)能楽協会))				
施策の予算額・執行額 (単位:百万円)	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	予算の状況	当初予算(a)	1,136	1,063	929
		補正予算(b)	0	0	0
		繰越し等(c)	0	0	0
		合計(a+b+c)	1,136	1,063	929
	執行額	592	571	894	
施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	「迎賓館運営大綱について」(昭和49年7月9日:閣議了解) 「明日の日本を支える観光ビジョン」(平成28年3月30日:明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定) 「観光立国推進基本計画」(令和5年3月31日:閣議決定) 等を踏まえて目標を設定。				

施策目標 (最終アウトカム)	・国として国際儀礼を尽くし、最高のおもてなしを行い、日本の外交に資するものとする。 ・迎賓館の一般公開等を通じて、我が国及び迎賓館の魅力を内外に発信することにより、迎賓施設としての意義及び迎賓館赤坂離宮の文化財としての価値、京都迎賓館が有する伝統技能等の価値についての理解を促進する。									
中目標1	賓客が安全・快適な施設に満足する									
測定指標1 【主要な測定指標】	接遇中に発生した不具合等の件数									
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	達成状況	
	目標値 (目標年度)	0件 (R8年度)	年度ごとの目標値	赤坂:0件 京都:0件	赤坂:0件 京都:0件	赤坂:0件 京都:0件	赤坂:0件 京都:0件	赤坂:0件 京都:0件	○	
	基準値 (基準年度)	赤坂:0件 (R3年度) 京都:0件 (R2年度)	年度ごとの実績値	赤坂:0件 京都:0件						
参考指標1	賓客の接遇に際して、施設の使用ニーズに対応できた割合									
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		
	参考値 (参考年度)	赤坂:100% (R3年度) 京都:100% (R2年度)	年度ごとの実績値	赤坂:100% 京都:100%						
中目標2	参観者が迎賓館の価値を理解する									
測定指標2	一般公開における参観者のうち、アンケートで「やや不満、不満」と答えた人の割合									
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	達成状況	
	目標値 (目標年度)	2%以下 (R8年度)	年度ごとの目標値	赤坂:2%以下 京都:2%以下	赤坂:2%以下 京都:2%以下	赤坂:2%以下 京都:2%以下	赤坂:2%以下 京都:2%以下	赤坂:2%以下 京都:2%以下	○	
	基準値 (基準年度)	赤坂:2.1% 京都:2.1% (H29～R3年度 平均)	年度ごとの実績値	赤坂:1.0% 京都:0.6%						
測定指標3 【主要な測定指標】	参観等を通じて、迎賓館の迎賓施設としての意義及び迎賓館赤坂離宮の文化財としての価値、京都迎賓館が有する伝統技能等の価値を感じることができた参観者等の割合									
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	達成状況	
	目標値 (目標年度)	赤坂:90%以上 京都:90%以上 (R8年度)	年度ごとの目標値		赤坂:90% 以上 京都:90% 以上	赤坂:90% 以上 京都:90% 以上	赤坂:90% 以上 京都:90% 以上	赤坂:90% 以上 京都:90% 以上	－	
	基準値 (基準年度)	赤坂:85.2% 京都:82.7% (R4年度)	年度ごとの実績値	赤坂:85.2% 京都:82.7%						
参考指標2	一般公開における1日当たり参加者数の平均									
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		
	参考値 (参考年度)	赤坂:345人 京都:104人 (R3年度)	年度ごとの実績値	赤坂:705人 京都:155人						

参考指標3	外国人参観者数								
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	参考値 (参考年度)	赤坂:1,512人 京都: 100人 (R3年度)	年度ごとの実績値	赤坂:4,883人 京都: 553人					
参考指標4	2回以上参観したことのある参観者の割合								
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	参考値 (参考年度)	赤坂:12.5% 京都: 8.6% (R3年度)	年度ごとの実績値	赤坂:13.8% 京都: 7.5%					
中目標3		迎賓館赤坂離宮・京都迎賓館に対する関心の向上							
参考指標5	迎賓館赤坂離宮及び京都迎賓館のHP閲覧数								
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	参考値 (参考年度)	赤坂: 2,573,139 京都: 628,548 (R3年度)	年度ごとの実績値	赤坂: 4,027,001 京都: 1,028,937					
参考指標6	特別開館のHP閲覧数								
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	参考値 (参考年度)	赤坂:44,918 京都:13,962 (R3年度)	年度ごとの実績値	赤坂:63,654 京都:18,750					
参考指標7	特別開館の実施件数								
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	参考値 (参考年度)	赤坂:0件 京都:0件 (R3年度)	年度ごとの実績値	赤坂:1件 京都:0件					

評価結果	目標達成度合いの 測定結果	(各行政機関共通区分) ② 目標達成
		(判断根拠)
	施策の分析 (目標達成・未達成に関する 要因分析等)	・新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大は、人々の行動に大きな制約が課され、迎賓館赤坂離宮及び京都迎賓館での接遇及び一般公開の実施にも大きな影響を与えた。しかしながら、令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症への対策や規制が緩和されてきたことに伴い、迎賓館での接遇が徐々に再開され、一般公開についても、令和4年度の参観者数は回復傾向が見てとれる。 ・測定指標1においては、賓客や外務省及び招聘機関等からの申出、あるいは当館が認知する不具合の件数を0件とするため、日々の施設及び設備の点検などを実施し、維持管理を適切に行うとともに、接遇当日を迎えるまでの間に相手国や在日大使館、外務省、警察庁などの関係機関との打合せや、相手国先遣隊の視察を通じた施設・設備に関する要望等への対応について、協議を重ね、事前準備を施した上で接遇当日を迎えることにより、迎賓館赤坂離宮及び京都迎賓館でそれぞれ実施した各5件の接遇中に不具合等を起こすことなく、施設管理者としての役割を果たした。 ・測定指標2については、展示及び案内方法をアンケート結果等も踏まえながら不断に改善しているほか、夜間公開や所蔵するピアノ演奏会等、工夫をこらした特別企画を開催するなどにより、迎賓館の施設、装飾、調度品、植栽などを有効活用しながら、迎賓館としての品格を損なうことなく、質の高い一般公開の実施が目標の達成につながったものと考えられる。一方で、手荷物検査が混雑して待機時間が長い、座る場所がもっとほしい等の参観者の意見もあった。なお、2回以上参観したことがある参観者(リピーター)の割合については、大きな変化はみられなかった。これは、リピート率の高い特別企画の実施には、企画の趣旨や質の確保の観点から参加人数に上限を設けざるを得ないことが多く、リピーターの割合に著しい変化を与えにくいことも要因の一つ。 ・中目標3については測定指標を設定していないが、参考指標5及び6において参考値を上回っており、迎賓館に対する関心の向上の目標が一定程度達成されたと考えられる。要因としては、アメリカ合衆国大統領との首脳会談の実施など、対面での外交の再開に伴うマスコミによる報道、旅行やレジャー関連の各種のメディアからの取材などを通じた広報、一般参観者の増加などが考えられる。また、民間事業者等からの「特別開館」に関する問合せも増加しており、HPの閲覧につながったものと考えられる。 ・参考指標7については、新型コロナウイルス感染症のまん延が特別開館の実施に影響したものと考えられるが、令和4年度には、約3年9か月ぶりに実施されるなど、社会・経済活動の回復に伴い、外部からの問い合わせの増加等の変化が見られた。
	次期目標等への 反映の方向性	【次期の施策の方向性について】 引き続き推進
		【目標・測定指標の見直し等について】 接遇に関しては、迎賓施設として有している機能を充分に発揮し、国際儀礼を尽くし、最高のおもてなしを通じて日本の外交に資するとともに、一般参観等を通じた迎賓館の理解の促進についても、順調に目標を達成した。 今後、新型コロナウイルス感染症に関する規制が緩和され、外国要人も含め、これまで滞りがちであった人の往来が更に活性化することが予想される。参観者数の状況も注視しつつ、オーバーツーリズムなどの課題に対しても適切に対応するとともに、一般参観者からの意見も踏まえながら、引き続き、特別企画の充実を図るなど、令和8年度の着実な目標達成に向けて取り組む。 特別開館については、ホームページの充実や利用希望者に対する施設視察やきめ細かな相談対応を行うなど、民間団体等による迎賓館の利用の促進に取り組む。 なお、一般公開に関して、中目標2に伴う測定指標3(主要な測定目標)は、令和4年度において新たに実施した一般参観者へのアンケートの結果を踏まえて、令和8年度までの目標値を設定したところであり、令和5年度から比較評価を行い、判断根拠として活用する。

学識経験を有する者の 知見の活用	
---------------------	--

政策評価を行う過程において 使用した資料その他の情報	一般公開におけるアンケート調査結果 (参考: 令和4年度実績 赤坂: 計6,484件を回収、京都: 計4,587件を回収)
-------------------------------	--

担当部局・作成責任者名	内閣府迎賓館 接遇課長 荒池 克彦、運営課長 高妻 博之、 京都事務所運営課長 岩間 功	事後評価実施時期	令和5年8月
-------------	--	----------	--------

参考指標3	外国人参観者数								
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	参考値 (参考年度)	赤坂:1,512人 京都: 100人 (R3年度)	年度ごとの実績値	赤坂:4,883人 京都: 553人					
参考指標4	2回以上参観したことのある参観者の割合								
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	参考値 (参考年度)	赤坂:12.5% 京都: 8.6% (R3年度)	年度ごとの実績値	赤坂:13.8% 京都: 7.5%					
中目標3		迎賓館赤坂離宮・京都迎賓館に対する関心の向上							
参考指標5	迎賓館赤坂離宮及び京都迎賓館のHP閲覧数								
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	参考値 (参考年度)	赤坂: 2,573,139 京都: 628,548 (R3年度)	年度ごとの実績値	赤坂: 4,027,001 京都: 1,028,937					
参考指標6	特別開館のHP閲覧数								
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	参考値 (参考年度)	赤坂:44,918 京都:13,962 (R3年度)	年度ごとの実績値	赤坂:63,654 京都:18,750					
参考指標7	特別開館の実施件数								
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	参考値 (参考年度)	赤坂:0件 京都:0件 (R3年度)	年度ごとの実績値	赤坂:1件 京都:0件					

評価結果	目標達成度合いの 測定結果	(各行政機関共通区分) ② 目標達成
		(判断根拠)
	施策の分析 (目標達成・未達成に関する 要因分析等)	・新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大は、人々の行動に大きな制約が課され、迎賓館赤坂離宮及び京都迎賓館での接遇及び一般公開の実施にも大きな影響を与えた。しかしながら、令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症への対策や規制が緩和されてきたことに伴い、迎賓館での接遇が徐々に再開され、一般公開についても、令和4年度の参観者数は回復傾向が見てとれる。 ・測定指標1においては、賓客や外務省及び招聘機関等からの申出、あるいは当館が認知する不具合の件数を0件とするため、日々の施設及び設備の点検などを実施し、維持管理を適切に行うとともに、接遇当日を迎えるまでの間に相手国や在日大使館、外務省、警察庁などの関係機関との打合せや、相手国先遣隊の視察を通じた施設・設備に関する要望等への対応について、協議を重ね、事前準備を施した上で接遇当日を迎えることにより、迎賓館赤坂離宮及び京都迎賓館でそれぞれ実施した各5件の接遇中に不具合等を起こすことなく、施設管理者としての役割を果たした。 ・測定指標2については、展示及び案内方法をアンケート結果等も踏まえながら不断に改善しているほか、夜間公開や所蔵するピアノ演奏会等、工夫をこらした特別企画を開催するなどにより、迎賓館の施設、装飾、調度品、植栽などを有効活用しながら、迎賓館としての品格を損なうことなく、質の高い一般公開の実施が目標の達成につながったものと考えられる。一方で、手荷物検査が混雑して待機時間が長い、座る場所がもっとほしい等の参観者の意見もあった。なお、2回以上参観したことがある参観者(リピーター)の割合については、大きな変化はみられなかった。これは、リピート率の高い特別企画の実施には、企画の趣旨や質の確保の観点から参加人数に上限を設けざるを得ないことが多く、リピーターの割合に著しい変化を与えにくいことも要因の一つ。 ・中目標3については測定指標を設定していないが、参考指標5及び6において参考値を上回っており、迎賓館に対する関心の向上の目標が一定程度達成されたと考えられる。要因としては、アメリカ合衆国大統領との首脳会談の実施など、対面での外交の再開に伴うマスコミによる報道、旅行やレジャー関連の各種のメディアからの取材などを通じた広報、一般参観者の増加などが考えられる。また、民間事業者等からの「特別開館」に関する問合せも増加しており、HPの閲覧につながったものと考えられる。 ・参考指標7については、新型コロナウイルス感染症のまん延が特別開館の実施に影響したものと考えられるが、令和4年度には、約3年9か月ぶりに実施されるなど、社会・経済活動の回復に伴い、外部からの問い合わせの増加等の変化が見られた。
	次期目標等への 反映の方向性	【次期の施策の方向性について】 引き続き推進
		【目標・測定指標の見直し等について】 接遇に関しては、迎賓施設として有している機能を充分に発揮し、国際儀礼を尽くし、最高のおもてなしを通じて日本の外交に資するとともに、一般参観等を通じた迎賓館の理解の促進についても、順調に目標を達成した。 今後、新型コロナウイルス感染症に関する規制が緩和され、外国要人も含め、これまで滞りがちであった人の往来が更に活性化することが予想される。参観者数の状況も注視しつつ、オーバーツーリズムなどの課題に対しても適切に対応するとともに、一般参観者からの意見も踏まえながら、引き続き、特別企画の充実を図るなど、令和8年度の着実な目標達成に向けて取り組む。 特別開館については、ホームページの充実や利用希望者に対する施設視察やきめ細かな相談対応を行うなど、民間団体等による迎賓館の利用の促進に取り組む。 なお、一般公開に関して、中目標2に伴う測定指標3(主要な測定目標)は、令和4年度において新たに実施した一般参観者へのアンケートの結果を踏まえて、令和8年度までの目標値を設定したところであり、令和5年度から比較評価を行い、判断根拠として活用する。

学識経験を有する者の 知見の活用	
---------------------	--

政策評価を行う過程において 使用した資料その他の情報	一般公開におけるアンケート調査結果 (参考: 令和4年度実績 赤坂: 計6,484件を回収、京都: 計4,587件を回収)
-------------------------------	--

担当部局・作成責任者名	内閣府迎賓館 接遇課長 荒池 克彦、運営課長 高妻 博之、 京都事務所運営課長 岩間 功	事後評価実施時期	令和5年8月
-------------	--	----------	--------